外来カメムシ目シタベニハゴロモの分布拡大

兵庫県立大学附属高等学校自然科学部

生物班　2年　　菅藤 康平

1,はじめに

シタベニハゴロモ Lycorma delicatula (White)は、中国、台湾、ベトナム、インドに分布し、後に韓国やアメリカでも発生が確認されたビワハゴロモ科の昆虫である。

今回は、兵庫県立大学附属高等学校付近に生息する本種の採集記録・行動観察の報告及び、これまでの日本国内における確認記録との比較を行う。

2,調査のきっかけと調査以前の記録

筆者は、兵庫県立大学附属高等学校付近に生息する半翅類について詳しく調査を実施している。その中で、本種は2023年より確認できるようになり、2024年の夏季休業より本格的に調査を開始したところ、カラスザンショウに最も集中していることが分かり、本種の生態について知りたいと思い、調査を実施した。

本調査以前は、2009 年に石川県小松市、2013 年に福井県あわら市、そして2017 年に大阪市住之江区南港中, 2019 年に岡山県備前市内の伊部で 1ex確認されている.、また、兵庫県においては、NPO法人こどもとむしの会の会誌きべりはむしや、個人ブログなどで観察記録があるが、その後の情報はあまり、まとまっておらず、詳しい情報はあまり分かっていない。

4,発見地の環境

見地は、標高約250～380mの準平原にある播磨科学公園都市内にある星の広場(図1)とその星の広場に続く道(図2)である。また、2024年は、日本各地で記録的な猛暑であり、9月半ばも真夏のような暑さの日もみられた。

また、樹種としても、カラスザンショウ、エノキ、ミズキなど、数多くの植物が混生している

図１，星の広場

図２，星の広場に続く道

5,当地での生活史・確認記録

（１）7月上旬までは、主に幼虫期

2024年5月20日、星の広場(竜野市新宮町光都)の調査の際、ガードレールに静止する本種の幼虫を発見した。(図3)5月から7月上旬までは、ガードレールに静止する幼虫を多く観察することができたが、また、本種の幼虫は様々な植物上についている様子も見られたが、この時は、寄主植物の解明はできなかった。

（２）　7月中旬から8月末が最も成虫が多い

2024年7月下旬から9月半ばまで、成虫(図4)を多く観察することができた。この時にカラスザンショウ、エゴノキから最も多くの成虫を観察することができ、その数は、♂17匹、♀21匹、雌雄不明7匹、計45匹兵庫県立大学附属高等学校敷地内で本種の成虫の死骸もいくつか観察することができた。

図３，幼虫

図４，成虫

６，考察・まとめ

今回の調査と過去に発表された記録から、本種は、カラスザンショウ、エゴノキ、ニワウルシなどを寄主植物としていることが分かった。

また、近年の地球温暖化問題や、本種の繁殖力の強さにより今後、兵庫県を含む日本各地でも確認される可能性が高く、今後の動向に注目していきたい。

本調査では確認することができなかった生態もあり、今後も調査を続けていきたい。

引用文献

富沢 章・林 和美・石川 卓弥・福富宏和・大宮正太郎・三上秀彦　日本におけるシタベニハゴロモの発生と分布

髙橋弘樹　　兵庫県におけるシタベニハゴロモの確認記録　きべりはむし　45 (1): 93-9